



# 「梅棹アーカイブズ」の活用に向けて

ほった  
堀田 あゆみ

総合研究大学院大学博士後期課程

民博の初代館長梅棹忠夫がのこしたフィールド・ノート、スケッチ、写真などの資料は「梅棹アーカイブズ」とよばれている。2011年度よりこの膨大な資料の整理とデジタル化、登録作業がはじまった。本共同研究では、梅棹アーカイブズのうちのモンゴル関係の資料を整備しつつ実際の活用を考える。

## モンゴル研究資料

梅棹アーカイブズのなかのモンゴル関係資料というのは、一九四四年から一九四六年にかけて中国内蒙古自治区などでおこなわれた調査研究の資料である。フィールド・ノートが約五〇冊（今西錦司らのものもふくむ）、スケッチ約二〇〇点、写真一〇〇点（和崎洋一コレクション）、ローマ字カード約二〇〇〇点、地図三点、原稿約一〇〇〇枚などがふくまれている。これらの資料の一部は、著作集第二巻『モンゴル研究』の編集の際に一度整理されたものの、ほとんどの資料は未整理のまま保管されてきた。これらすべての資料を解説し、分析することによって、当該地域の当時の自然環境や生活様式、社会関係や物質文化などをつまびらかにすることが可能になる。本共同研究「梅棹忠夫モンゴル研究資料の学術的利用」は、今後のアーカイブズ資料の整備・活用に向けた実証的研究のパイロット的な事例として位置づけることもできる。

## 共同研究メンバー

モンゴル研究資料の解説をすすめるにあたり、学際的に研究者が集まった。歴史学および民族学の視点から分析を担当するのが静岡大学の楊海英教授、言語学からは富山大学の呉人恵教授、牧畜論の分析に

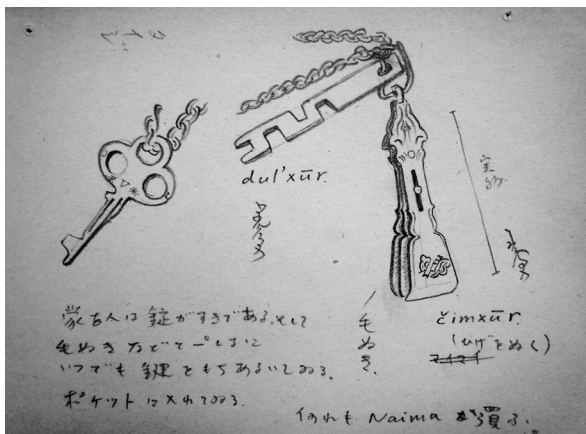


和崎コレクションの写真はデジタル化することによって分析が容易になった。写っているのは、モンゴル牧畜民の一家

からそれぞれ言語学、民族学、歴史学の専門家を集めた研究チームが編成されつつある、という。二〇一三年二月には日本で国際共同研究会をひらく計画があり、その成果は日本語ならびにモンゴル語で出版される予定である。国際共同研究をとおしてえられた成果が、調査後七〇年を経て現地に還元されることになる。

## 書き込みのスケッチ

二〇一一年一〇月一〇日、民博の梅棹資料室に日本の共同研究メンバーが集まりアーカイブズ資料と対峙した。資料の量もさることながら、精緻なスケッチ、フィー



スケッチには、観察・聞きとり内容が書きこまれている

ルド・ノートに書きつけられた多岐にわたる詳細な事象、それと同時に将来の研究の枠組みを構想する大局的見地が併存していることに圧倒された。梅棹忠夫の知的遺産を正確に読みとるにはどうすればいいだろうか。長期的な取りくみが必要であることを確認すると同時に、一年半というかぎられたプロジェクト期間のなかで最大限の成果をうむ方法について議論した結果、特にスケッチと写真に焦点を絞ることが決まった。

二〇〇点におよぶスケッチには、さまざまな書き込みがされている。えがかれた対象物の収集地や寸法、素材、部位ごとの名称、用途、用法、特徴、製作者などの情報が、モンゴル文字と発音記号およびカタカナで表記され、日本語の説明が付記されている。一九四〇年代の当該地域の物質文化を知る手がかりとなる非常に貴重な資料である。他の資料に付属するスケッチも入れると三〇〇点ぐらいに増えそうだ。また、和崎コレクションである一〇〇枚の写真には、家畜の搾乳や移動といった草原のくらし、寺院や市街のさまなどが映しだされており、民族誌のおよび歴史的資料としての価値があると判断された。

これらの資料をカタログ化するとともに、各研究者の専門的な視点から多角的な内容分析をくわえることにより、当該地域の

研究にとどまらず牧畜研究や遊牧研究といったさまざまな研究分野への展開が期待される。

## 梅棹忠夫のみたモンゴル

現代のモンゴル遊牧民のモノをめぐる文化について研究している筆者にとつて、梅棹アーカイブズのモンゴル研究資料は、七〇年前の遊牧民の生活世界がぎっしり詰まった玉手箱である。現代の物質文化との比較や、当時の人びとのモノとの関係性を探ることも可能であろう。偉大な先達の手で記録された貴重なスケッチや書き込みを一言一句もろさぬよう、気合を入れて分析作業にのぞみたい。

### 共同研究

「梅棹忠夫モンゴル研究資料の学術的利用」  
2011年10月～2014年4月  
代表者：小長谷有紀（民博・民族社会研究部教授）

### 「研究関連情報」

■「フメサオタタ才展―未来を探検する知の道具―」開催中。

開催期間：2011年12月21日（水）～2012年2月20日（月）

場所：日本科学未来館  
〒135-0064 東京都江東区青海2-13-16

■国際学術交流協定に基づいた中国内蒙古大学との国際共同研究会。

2013年2月（予定） 大阪